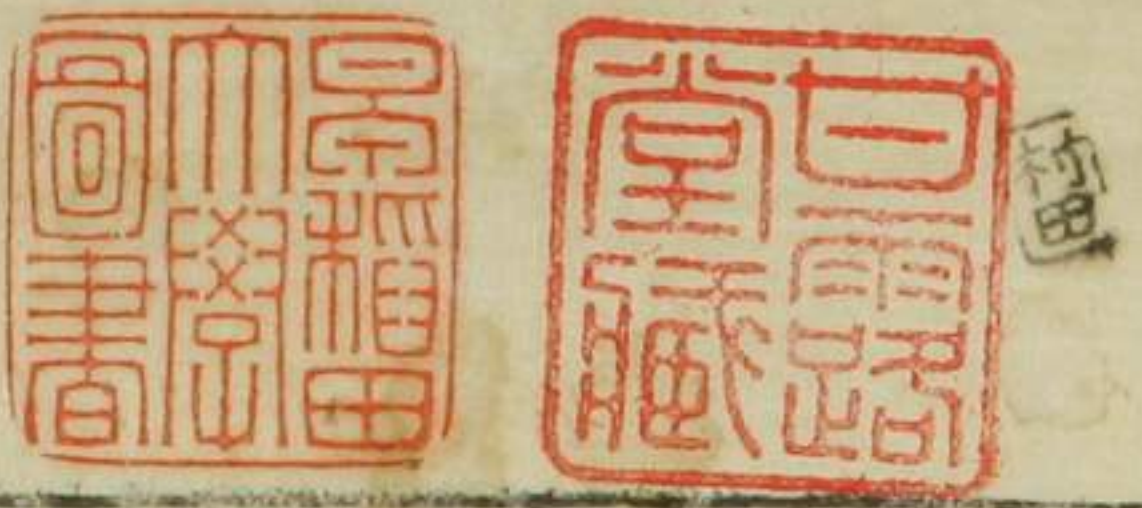


特別
〜13
4181
3



持
八三
4181
3



くわんげ目録

くらりの大酒蔵のち

酒とくらりくらりくらり

目かま天照を神の四時くら酒のち

樽くの故ものち

くらりくらりくらりくらり

目かまもくらりくらり酒蔵くらりくらりくらり

酒のくらりくらりくらり

酒のくらりくらりくらり



て引いざりては、酒とのをぞ、歌ぶりの、朝酒集よ
は、酒家く、花處くとも、ひの花下、三陽、因、羨、系、楊
勸、醉、是、春、風、と、も、芳、林、携、客、醉、眠、花、あ、と、も
ゆ、め、り、ぞ、れ、ら、り、下、つ、こ、其、時、の、早、あ、と、も
ふ、と、も、表、花、の、真、と、歌、ぶ、り、和、漢、の、用、依、ま、た、花
亭、解、て、秋、美、と、と、り、交、あ、ま、と、歌、り、い、づ、く、と、流
波、の、美、あ、と、も、歌、を、ひ、秋、の、あ、ま、と、ひ、昏、く、氣、と
風、の、と、け、と、ま、ご、お、あ、と、ま、ひ、た、と、酒、の、ま、ご、と、流、く
か、し、流、く、秋、の、子、終、と、も、あ、と、も、野、分、の、流、小、流、美、
ゆ、ら、り、ん、れ、ら、も、時、た、ま、お、あ、れ、は、葛、の、う、ら、系、は、

こ、わ、も、酒、の、ま、ご、と、ら、り、し、う、た、ま、ま、よ、い、づ、く、と、か、い
か、あ、り、く、着、や、ら、り、あ、ま、ま、と、あ、れ、と、歌、り、あ、り
ゆ、め、り、と、流、の、ゆ、と、志、の、ま、ご、と、い、づ、く、と、ら、り、月、の
秋、と、も、酒、の、ま、ご、と、流、ま、ご、の、暖、さ、り、日、秋、よ、い、づ、く、と、
こ、ら、り、と、酒、と、も、は、南、春、と、も、松、歌、春、と、も、ら、り
鏡、唐、の、和、靖、が、酒、の、ゆ、め、と、温、如、春、色、爽、如、秋、一、極、樽、前
自、献、酬、百、万、愁、磨、降、不、得、故、應、用、示、也、と、流、
つ、げ、ふ、い、づ、け、あ、と、も、わ、く、と、も、あ、ま、と、も、酒、と
か、あ、り、と、も、百、万、の、愁、磨、と、流、伏、す、り、と、り、家、
史、新、編、よ、和、靖、が、ゆ、め、り、道、と、た、の、と、と、と、歌、り、と、

安樂先生といわれ、郡康節と酒色の中より花
枝わりとしてさうさよはふ花とて、奥きりけり。
賜宴とて進士及第のこれと。君宴と賜宴例とわり。
大射礼よ、肩つら者と揖し、解らふ愛とて酒と飲
まむらとふり、礼記よみそとて。唐の太子賓客白樂
天の酒功賛とけり、郷飲酒義とふ書め、酒と載
せり。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
らぬとて、さうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

慶安式屠維丑周年上旬

棟條軒
戲書

よこし中の家 三才酒義
よらこび、年んずり年の翌年とて、やあめはら
のとれ、ちのまきさうら、周さりのものとのけり、さ
あ、さうさうの海とさうさうさうさうさうさうさうさ
よらこび、年んずり年の翌年とて、やあめはら
のとれ、ちのまきさうら、周さりのものとのけり、さ
あ、さうさうの海とさうさうさうさうさうさうさうさ
よらこび、年んずり年の翌年とて、やあめはら
のとれ、ちのまきさうら、周さりのものとのけり、さ
あ、さうさうの海とさうさうさうさうさうさうさうさ

くぐり今いぬりくふ米のこころ。本は実なる其報るごと
くして細りの法と久く好むゆへなり。葡萄酒。火加酒。意
茨酒。葛蒲酒。杞杞酒。葛薯酒。牛蒡酒。比黄酒。當
飯酒。牛膝酒。りごのこころ。今も品くゆりゆり。三々
の酒らふゆりゆり酒と。薬じてそのゆりゆり。ゆりゆり
受とめてそれゆりゆり。ゆりゆりゆりゆり。ゆりゆりゆり
まこいゆりゆり。ゆりゆりゆりゆり。ゆりゆりゆりゆり
よな月よびゆりゆり。ゆりゆりゆりゆり。ゆりゆりゆりゆり
の醒めとゆりゆり。西京雜記さいけいざつぎよみえゆりゆり。ゆりゆり
酒と。東酒とゆりゆり。湯膠とうかうとゆりゆり。黄醪おうらうとゆりゆり

熟酒じやくしゆのうまなり。ゆりゆりゆり。松まつとゆりゆり。ゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆり。ゆりゆりゆりゆり。ゆりゆりゆりゆり
松の木まつや。苧お葉はの焼やく。ちるゆりゆり。ゆりゆりゆりゆり
ゆりゆり。早はやく。研けんのこころ。ゆりゆり。ゆりゆりゆりゆり
と米こめとゆりゆり。ゆりゆりゆり。ゆりゆりゆりゆり
ゆりゆり。ゆりゆりゆり。ゆりゆりゆり。ゆりゆりゆり
書かふゆり。如ごと浮うや。師し古こ後ごゆりゆり。ゆりゆりゆり

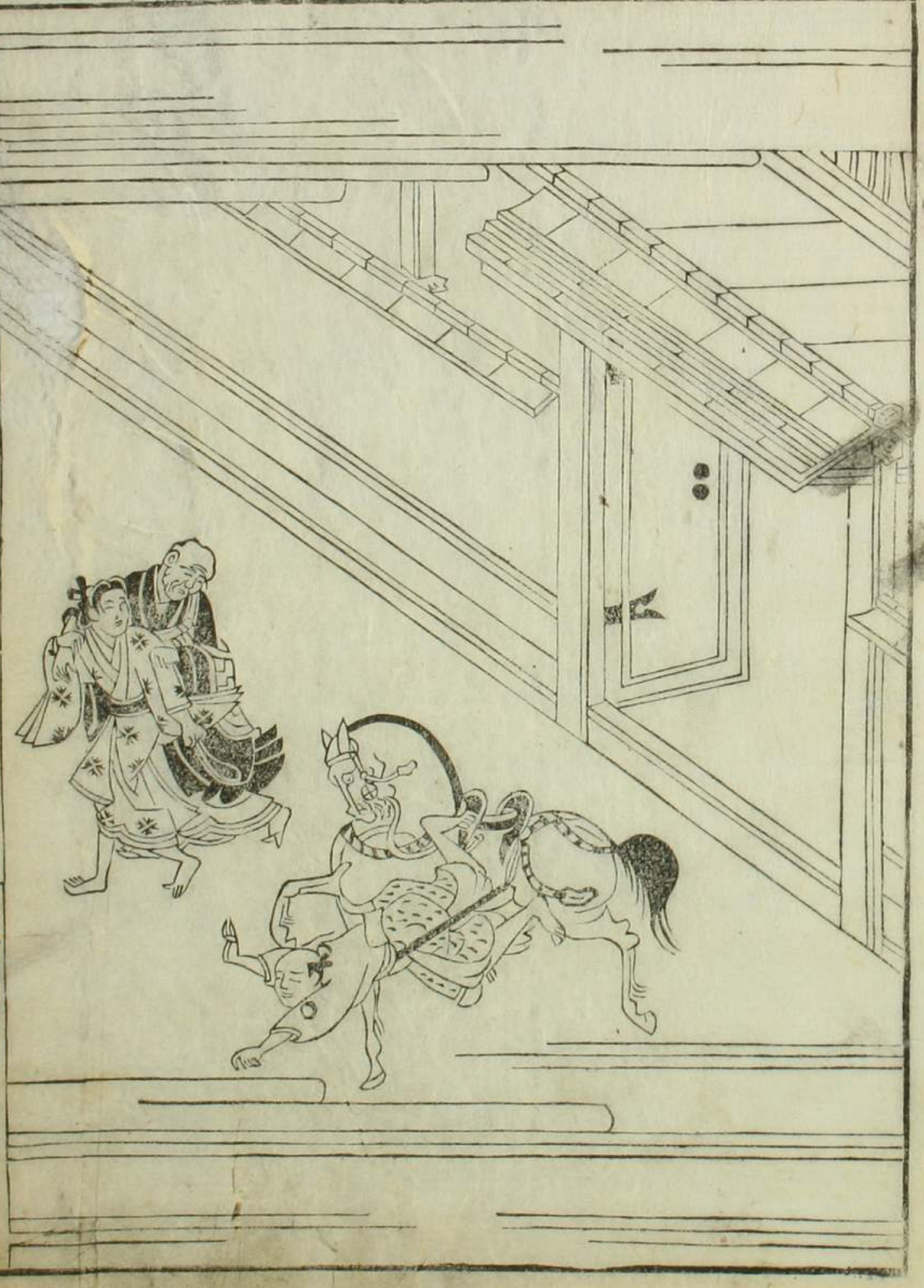
惣じてのりつゝの杏花村とて愛うゝ此の村の酒
 屋がゆかりさまりされど杏村といふと酒の屋敷といふ
 酌^{しやく}杏^{きやう}といふもゆかりの多かりきまゝに酒屋とさうて
 壺^{つぼ}といふといふのりぢとさうく葉^はをて酒壺^{しゆ}とすぬ
 て壺^{つぼ}といふと壺^{つぼ}といふがゆかりの湯^ゆの火^ひを参^まがゆ
 めも壺^{つぼ}頭^{かぶ}酒^{しゆ}正^{せい}杏^{きやう}と化^かれり。室^{むろ}といふにそ人の目^めに
 つる酒^{しゆ}が希^{まれ}なれがらうゝる賣^う酒^{しゆ}樓^{ろう}とて門^{かど}槽^{さう}とて
 旗^{はた}とて酒^{しゆ}屋^やのさうとみ先^{まへ}と酒^{しゆ}旗^{はた}といふまゝに
 布^{ぬい}といふさ布^{ぬい}とやうさうの家の大小もさうの旗^{はた}
 色^{いろ}大小^{おほい}わりわりひの瓶^{びん}といふてさうとすもめ



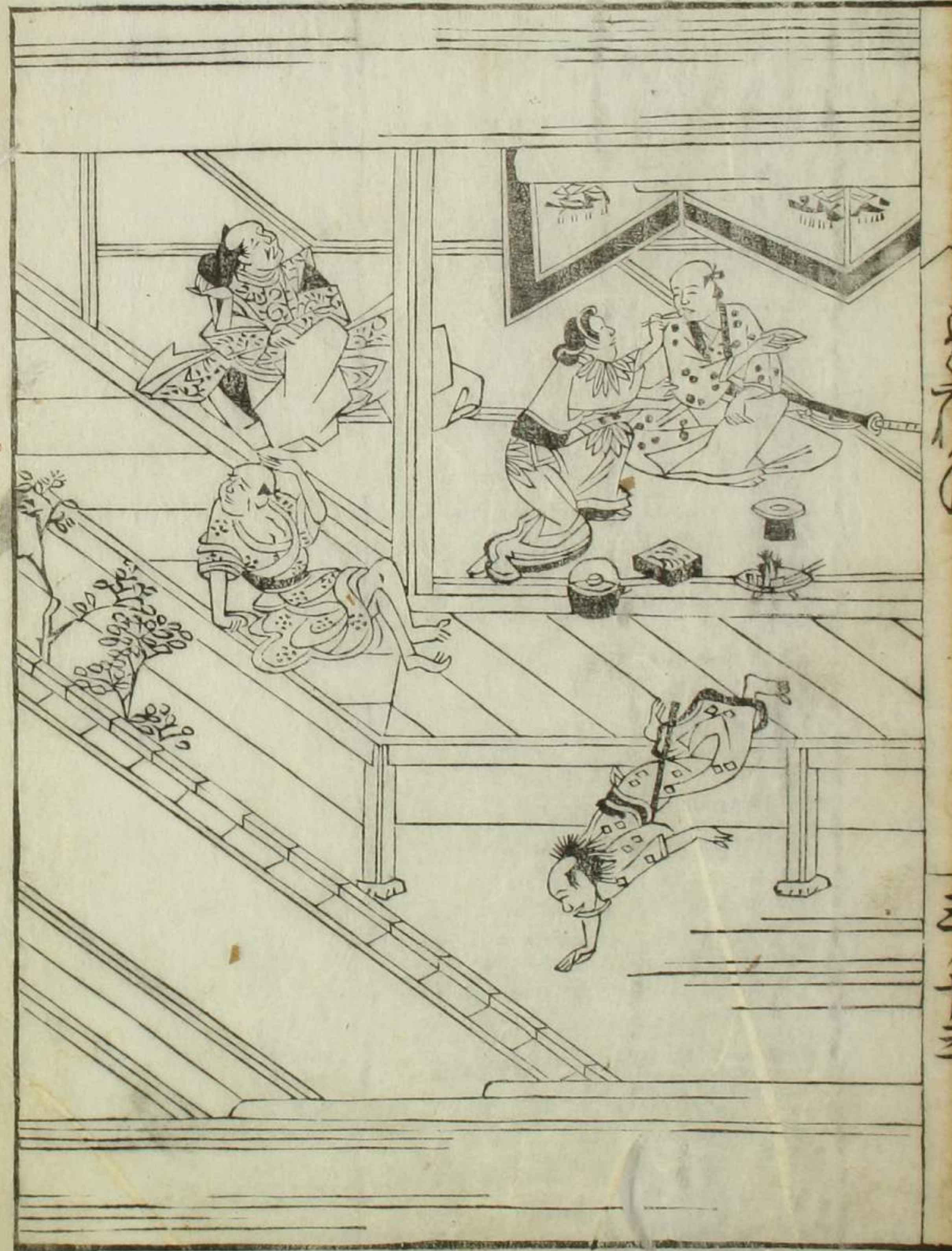
ひ生と腐てころがごとくあり年ハ増えけけ穢わらけ女ハ
頼ぐもかこわげのむづかることごとく戯え一戯うらわ
がて打発の意のころより中より者とりてたふさ
つけ殺し食らういとかん若一若のころにうさひ舞
自慢すごかたらう〜下は酒のころりわの核のひ
みそわ〜〜〜のゆるあおむも推た縁よりあら
るころあらてわあたらとあめとあめかどの若あは
と〜りかひ〜りの薬師の下のまごいえといえれぬ
〜〜〜年若きころけころは柳のふききり
肩あ〜〜〜あえわ〜〜〜ひ〜りあめ〜〜

わされあらびつてとい世も後の母もたれたるゆゑ
り〜はせむ〜いせ〜い〜わやまらあり財と考ひ
病と役くのらのせ〜の戯鬼道は墮罪す〜佛
の説治ふまれのいふと戸の云つま〜るのとかんあ〜と
えて兼好の詞は尾緒とさ〜せいせ治〜でせれぬ人
と戒〜ら〜る〜の碎境〜いれ〜も破れ〜の〜と酒
一は約百篇とて李貞一斗の〜の〜百首の〜と
作りけき勝王園の序と作するま〜とらひ〜の
又他〜んと〜の酔飲〜と〜書〜と〜すらつ
外ら〜し〜の〜と〜れ〜の〜長篇〜と〜一字

三ノ十



三ノ十



三ノ十

三ノ十

一戸の云々戸と云々世の儂人のことと云々
 戸と云々戸といひり戸と云々戸と云々戸と云々
 文集と云々戸と云々戸と云々戸と云々戸と云々
 多し酒の云々酒の云々酒の云々酒の云々
 十の過失と云々分律と云々わげと云々と云々の擧あり
 一四色思と云々眼目闇と云々失本心と云々乱心起と云々失
 智あると云々思口起と云々七不無身八犯禁戒九重病
 基十短命相十一失財寶十二起妬欲十三流
 息者十四犯貴人十五貪及根也と云々世との事

わるあまし酒やさけわと云々のめも胃と云ふ
 了祿酒と云々又脾と云々やと云々はいみと云ふ
 上戸の云々酒と云々酒ありと云々人との云々ありあり
 白樂天の云々酒は百業之最長有十徳之嘉也
 散爵氣と云々瘴氣不犯と云々益勇力五近貴人
 六免過失七嗜諸執八解毒九助飢十
 忘薄衣十一不慕榮利十二不惜財寶十三消
 愁十四安不寐十五梳篦也と云々世との事
 ありあり酒と云々酒と云々酒と云々酒と云々

を酒や三つとさうりものゆかりいふと云ふ戸の
云十人の徳をゆきしりし酒は換されし解
すくうこよわびび友いおまら酒は酒を穀湯
とよとこらな穀の御叔は飲酒の劑と解して野せ
らけしとあそと魏志はゆりだれと戸はさうとと
解とのよめと北の人の禁戒とてゆくと酒あり
意遠法師は百蓮社と結びたてて酒明と振さる
酒とゆきまゆりんとさるる酒とゆりしり酒
酒明は酒とてさるる酒の酒とて酒あり酒あり
酒ありとさるる酒とさるる酒と酒あり酒あり酒あり

とてて慶儀の中あも入らぬと戸山雜記よみえ
つよとて高僧傳あも色のせりしと云ふと戸の云竹林
の七賢とて慈康院藉院咸向秀劉伶王戒山濤ハ
晋の代はあそ道とたのしむる人なれどみお酒
と愛してそい酒しりし酒章汝陽在相宗之
蘓晋太子白張旭焦遂ハ飲中の八仙とて仙道の事
者ありし酒の酒の酒の酒の酒の酒の酒の酒の酒
も孔子ハ聖人の大成とて古今の道の師とて地心
たりつと年つりのさうつと酒の酒の酒の酒の酒の酒
ひ印綱の首世さうつと酒の酒の酒の酒の酒の酒の酒

あつとゆるほど遠慮 虎溪の橋とて 漸明 彼流
と之契とかなとて 一とていひ 佛のゆるし 腹の
のころりころり 一とていひ 佛のゆるし 腹の
の酒のまをせ 飲やとていひ 放す 一とていひ 書はゆるわと
し 一とていひ 佛のゆるし 腹の 一とていひ 佛のゆるし 腹の
干鐘 孔子 百觚 子路 嗑嗑 尚飲 百榼 子何辞 季とて
そゆるき 一とていひ 佛のゆるし 腹の 一とていひ 佛のゆるし 腹の
ト戸のまをせ 飲やとていひ 放す 一とていひ 書はゆるわと
計とていひ 佛のゆるし 腹の 一とていひ 佛のゆるし 腹の
はれわらぶとていひ 佛のゆるし 腹の 一とていひ 佛のゆるし 腹の

ぶこふわらぶとていひ 佛のゆるし 腹の 一とていひ 佛のゆるし 腹の
かり 涅槃 經曰 酒 爲 不善 諸 惡 根 本 若 能 除 斷 則
遠 衆 罪 と あり ず 一とていひ 佛のゆるし 腹の 一とていひ 佛のゆるし 腹の
三 惡 道 と あり ず 一とていひ 佛のゆるし 腹の 一とていひ 佛のゆるし 腹の
り 蓋 の 一とていひ 佛のゆるし 腹の 一とていひ 佛のゆるし 腹の
と 法 也 佛の 優 波 梨 一とていひ 佛のゆるし 腹の 一とていひ 佛のゆるし 腹の
よ 一とていひ 佛のゆるし 腹の 一とていひ 佛のゆるし 腹の
阿 仏 の 一とていひ 佛のゆるし 腹の 一とていひ 佛のゆるし 腹の
と あり ず 一とていひ 佛のゆるし 腹の 一とていひ 佛のゆるし 腹の
よ 佛の 一とていひ 佛のゆるし 腹の 一とていひ 佛のゆるし 腹の

羅漢の果とえこれに佛まき優波梨と讚し給ふと
りり。分別功德論よりとり。ト戸の云佛の酒を戒
ゆる勿論まき酒を戒行もがらりりりり其酒は
論曰有一部波索迦。稟性仁賢受持五戒專精不犯
後於一時為渴前逼見一器中有酒如水遂取飲之
尔時便犯飲酒戒時有隣雞乘入其室盜殺而
噉復犯殺盜戒隣女尋雞乘入其舍強逼交
通復犯邪行戒隣家告官訊問拒諱復犯誑語
戒如是五戒皆由酒犯とわり。是とらん酒つごあや
とふ。ト戸の云八家とくに酒ハ戒されども律宗のこ

まり割へ線糸の倍なり。何ぞ又戒とせけんや酒を飲む
と人とも若やくとて酒と若村とらりりもわりとふ。
ト戸の云文字は義とつきて私の海とあはれあふ。
江相公の約も酒是下若村之所傳頓甚美あまき
む若村の人のあるりまき酒のめとねまといんごん
とねらうしり酒とふ文字より故と捨て文字の
茶と村の酒と浮畑とらふあれた畑の浮りり
のまりといひらやとらふ。ト戸の云故とらり酒ふよ
いごとらん酒と蒲城とらふらりらりらりらり
ト戸の云酒の其歴のつとらり同給んとせしむく



ても酒のうらそくさののり。白氏文集あも電
 示本躰人碑顯本心とわきか愚らうんよさふ印性
 ろうれんかいと口ゆのうまうと又後漢書あも
 試合い次試久以酒とぞち海心の汚き鏡影と
 のとあもわらど清河の魚衣の鏡自さけは破き
 らぬくうとそくさ人あも破られぬらふ



三
十
九

三
十
九

